









高温に対する農作物の技術対策について

令和8年5月14日
農業技術課

<天気概況>

甲府地方気象台の週間天気予報によると、2週間予報では週末にかけて気温はかなり高温で推移する予報となっています。

今後の気象推移に注意し、農作物の管理には注意して下さい。

| 山梨県の天気予報（7日先まで） | | | | | | | | |
|---------------------------|--|---|---|---|---|---|---|--|
| 2026年05月14日17時 甲府地方気象台 発表 | | | | | | | | |
| 日付 | 今夜 14日(木) | 明日 15日(金) | 明後日 16日(土) | 17日(日) | 18日(月) | 19日(火) | 20日(水) | 21日(木) |
| 山梨県 | 曇  | 晴時々曇  | 晴時々曇  | 晴時々曇  | 晴時々曇  | 晴時々曇  | 曇時々晴  | 曇  |
| 降水確率(%) | -/-/-30 | 0/0/10/10 | 20 | 20 | 20 | 20 | 30 | 40 |
| 信頼度 | - | - | - | A | B | B | A | B |
| 甲府 気温 (°C) | 最高 | - | 30 (28~32) | 30 (27~33) | 30 (26~34) | 30 (26~34) | 29 (27~31) | 27 (24~32) |
| | 最低 | - | 15 | 16 (13~17) | 16 (14~18) | 16 (14~18) | 17 (15~20) | 18 (16~21) |

1週目の予報（日別）

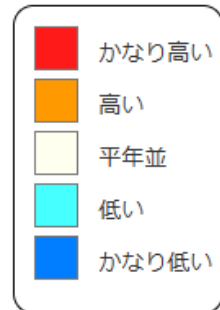
15 16 17 18 19 20 21
金 土 日 月 火 水 木

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 29 | 27 |
| 15 | 16 | 16 | 16 | 17 | 18 | 19 |

2週目の予報（5日間平均）

22 23 24 25 26
金 土 日 月 火
(20~24日) (21~25日) (22~26日) (23~27日) (24~28日)

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| 18 | 18 | 18 | 17 | 17 |



<気象予報> 気象庁 5月14日 17時時点

1 果樹

<共通>

- モモ、スモモ等は果実肥大期、大房系のブドウでは、早場地域で、開花が始まっている。
- 乾燥する場合は、7～10日間隔で、1回あたり20mm程度の十分なかん水を行う。
- 草生栽培園では、定期的な草刈りを実施し、水分競合を避ける。
- 樹冠下は、わらマルチや草刈により土壌の乾燥を防止する。特に苗木や若木では徹底する。
- かん水施設等のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり200～300リットルをかん水する。
- アザミウマ類やハダニ類の発生が多くなることが懸念されるため、定期的な防除を徹底する。

<施設ブドウ>

- 果粒軟化期以降からは、高温多湿によるムレ(果粒への結露)を抑えるため、換気が遅れないように注意する。
- 果粒軟化期は高温により着色不良や品質低下を招きやすいため、適切な換気やこまめな散水を行う。

<ブドウ>

- 開花期となるため、高温乾燥による落蕾を防止するため、適切なかん水を行う。
- 高温で推移する場合、生育が前進するため、栽培管理や防除が遅れないようにする。
- 高温乾燥時にデラウェアの第1回目ジベレリン処理を行った園では、日没後か翌朝の日の出前に棚散水を行い、ジベレリンの吸収を促す。

<立木類>

- モモでは、満開後40～50日頃(硬核期)に入る。急激な摘果を行うと、核割れ果、変形果、生理落果の発生を助長するため段階的に行う。

2 野菜

- 健全な生育を促すため、定期的にかん水する。
- 地温の上昇と水分の蒸散を抑えるため、敷きワラや敷き草を行う。
- 草勢が落ちている場合には、必要に応じて液肥の葉面散布を行い、回復を図る。
- ハダニ類、アザミウマ類、オオタバコガ等の害虫による被害の増加が懸念

されるため、発生状況を把握し、発生初期の防除に努める。

- 施設栽培では、強制換気や遮光等により施設内温度の上昇を防ぐとともに、適宜かん水する。

<スイートコーン>

- 雄穂出穂以降から収穫まで降水量が少ない状態が続くと、果実の肥大不足や先端不稔をまねくため、適宜かん水する。
- 収穫の遅れは果実の萎び発生につながり品質低下となるため、適期収穫に努める。

3 水稲

- 育苗にあたっては、気象の推移に応じて、きめ細かい管理を行う。特に、最高気温に注意し、トンネルまたはハウスの換気・水管理等に十分注意する。

4 花き

- 鉢花・洋ランは、日中ハウス内が高温にならないよう、遮光や換気を徹底する。また、鉢の乾燥に注意し、こまめな水やりに努める。

5 その他（熱中症対策）

暑熱環境下での作業は、熱中症（熱射病、熱けいれん、熱まひ）を生じる恐れがあるので、次の事項に注意する。

- 気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の作業時間を工夫する。
- 水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付ける。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装を着用する。
- 作業場所には日よけを設ける等、できるだけ日陰で作業する。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。
- 作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか、断熱材で隔離し加熱された空気は屋外に排気する。